科目ナンバリング	U-LAS20 10001 SB48						
授業科目名<英訳>	英語リーディング ER50,ER56 1T15,9 English Reading			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 藤岡　真樹		
群	外国語科目群		分野(分類)		使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金1/金2	配当学年	1回生	対象学生	全学向

[技能領域]

アカデミックリーディング

[授業の概要・目的]

本授業は、冷戦期のアメリカ合衆国（以下、アメリカ）における科学研究の歴史に関する研究書を題材として、学術的な英語文献を読みこなすに必要な知識―学術英語に見られる文章構造の特徴、語彙、慣用句、文法など―を教授し、かつ、アカデミックな場面で必要となる「読解力・精読力」、そして「（可能なかぎり）短時間で文章全体の内容（とくに筆者の主張や論旨）を把握する力」を受講生に身につけてもらうことを目的に実施するものです。

上記の目的に加えて、この授業では、アメリカにおける科学研究がいかに社会の多方面に影響を与えるものであるか、そうした科学研究が連邦政府や政府や軍部と深く関与することは何を意味するのかという問いに対して、歴史的事実を踏まえつつ、冷静かつ論理的に考えることのできる見識の涵養も目的としています。かかる見識に基づいて得られる「教養」は、受講生が科学者やエンジニアなどの道に進む際、いかなる環境や立場に置かれうるのかを予測することに資するものであり、受講生には、本授業を、これからの学生生活や卒業後のキャリアを構想する一助にしてもらいたいと思います。

[到達目標]

本授業では、英語で書かれた学術書を読解する際に必要となる「読解力・精読力」、「短時間での文章全体の内容把握力」の習得および向上を目標としています。

具体的には、

(1) アカデミックな英文の読解に必要な語彙・慣用句・文法の知識を習得すること
(2) 学術英語に見られる文章構造の特徴、わけても「トピック・センテンス」と「パラグラフ」の定義および英文におけるそれらの役割について理解すること
(3)「トピック・センテンス」を利用し、単語や表現、文法などが難解な箇所を読み解く方法を理解・習得し、「読解力・精読力」を向上させること
(4)「トピック・センテンス」ならびに「パラグラフ」を利用して「短時間で文章全体の内容を把握する方法」を習得すること

を本授業の到達目標とします。

[授業計画と内容]

【「一般学術目的の英語」としての位置づけ】

この授業は、自然科学、社会科学、人文科学といった分野を問わず、アカデミックな英文において一般的に用いられる語彙や慣用句、文法を習得しつつ、学術書や学術論文に特徴的な文章構造と論理展開に慣れることを目的としています。

【教材の性質や主題】

英語リーディング ER50,ER56(2)へ続く↓↓↓

英語リーディング ER50,ER56(2)

教材とする研究書と研究論文は、

(1) Stuart W. Leslie. The Cold War and American Science: The Military-Industrial-Academic Complex at MIT and Stanford. New York: Columbia University Press, 1993.
(2) Jessica Wang. "American Scientists and Cold War Politics: Current and Future Research Directions." Historia Scientiarum, vol. 16, no. 1, 2006.

の2つです。

(1)は、第二次世界大戦後のアメリカの大学における科学研究が、冷戦遂行の必要性から資金の面でも規模の面でも急激に拡大し、連邦政府や軍部、財団や企業との関係が緊密化していく歴史的過程を、マサチューセッツ工科大学（MIT）とスタンフォード大学を事例に跡づけた歴史書です。さらに同書は、かかる大学のあり様についての考察をも含んでいます。本授業では、同書の "Introduction"を取り上げます。この教材を通じて、第二次世界大戦後のアメリカの科学研究をめぐる概略的知識を習得しつつ、ときに抽象的で哲学的な議論がなされるアカデミックな英文の読解および内容把握の方法に慣れてもらいたいと思います。
(2)は、アメリカのみならず世界の科学研究に冷戦が及ぼした影響や弊害を科学者個人のエピソードに注目して執筆された論文（アカデミック・エッセイ）です。順序としては、比較的短めの(2)から読みはじめ、読解に慣れてきたところで(1)の文章に移ります。

【授業計画】
※受講生の理解度合いによって、回数を変更する場合があります。

第1回　イントロダクション（授業の進め方、成績評価の方法についての説明）

第2回～第3回　上記文献(2)を読む。【1周目】

第4回～第6回　上記文献(2)の学生によるプレゼンテーション。【2周目】

第7回　「論旨」の確認作業（学生との擦りあわせ）。【3周目】

第8回#12316第10回　上記文献(1)を読む。【1周目】

第11回～第13回　上記文献(1)の学生によるプレゼンテーション。【2周目】

第14回　「論旨」の確認作業（学生との擦りあわせ）。【3周目】

第15回　定期試験

第16回 フィードバック（フィードバックの方法は別途連絡します。）

【受講者が教室で行う作業：「1周目」】
本授業では、文献(1)と(2)を「3周」します。「1周目」は、各パラグラフの「トピック・センテンス」（詳細は授業で説明します）の「精読」に取り組みます。講義形式で、「トピック・センテンス」に関する理解度合いを確認します。すべてのパラグラフの「トピック・センテンス」を読み終えたあとは、クラス全体で、英文全体をいくつの「パート」に分けうるのかを議論します。

英語リーディング ER50,ER56(3)へ続く↓↓↓

英語リーディング ER50,ER56(3)

（1）「トピック・センテンス」の解説
（2）「トピック・センテンス」における「トピック」と「アイディア」を参照し、その段落の内容を「予測ないし推測」
（3）Thesis Statementの探索

ただし、パラグラフによっては、「トピック・センテンス」のみならずパラグラフ全体の精読をしてもらう必要がある箇所があります。ですが、受講生が自らそれらを見分ける力を習得すべきとの観点から、担当者から事前に受講生に伝えることは極力控えます（予習の方法については、下記「授業外学習(予習・復習)等」を参照）。

【受講者が教室で行う作業：「2周目」】
「2周目」は、「トピック・センテンス」の理解を踏まえたうえで、パラグラフ全体の内容を理解する授業を実施します。授業では、「1周目」の「パート」分けに沿って、グループを組み、グループ内で役割分担をして、以下のプレゼンテーションに取り組んでもらいます。

(1)「パート」全体の概略の説明（英語ないし日本語）。
(2) 読解にあたって難解と思われる個所を、「パート」内から3〜5ヶ所選定し、スライド等を用いて説明。
(3) 担当者からの質問への回答。

「2周目」の授業の解説を通じて、受講生には「トピック・センテンス」がいかにパラグラフ全体の内容と情報を凝縮したセンテンスであるかを理解してもらうことが、「2週目」の学習のねらいです（予習の方法については、下記「授業外学習(予習・復習)等」を参照）。

【受講者が教室で行う作業：「3周目」】
文献の該当箇所を「2周」し終わった直後の1回の授業を「3周目」の読解に当てます。ここでは、教材の「論旨」について、受講生と担当者との間での擦りあわせ作業をおこないます。この「論旨」についても、受講生が自力で読み取る力を身につけてもらうべく、「1周目」と「2周目」の授業では担当者から受講生に伝えることは極力控えます（予習の方法については、下記「授業外学習(予習・復習)等」を参照）。

【履修の心得など】
(1) リーダーズなど中レベル以上の英和辞典を毎回持参して下さい。
(2) 出席確認の方法は、授業開始時の点呼とします。この際に返事のなかった人は、カードリーダーの読み取りによる記録の有無にかかわらず「遅刻ないし欠席」とします。「遅刻3回」で「欠席1回」とカウントしますので、十分注意して下さい。

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

【成績評価の方法・観点及び達成度】
平常点（予習の有無、授業への積極的な参加や発言、プレゼンテーションにおけるパフォーマンス、「論旨ペーパー」の提出）：40%、定期試験：60%

【成績評価に関する注意事項】

英語リーディング ER50,ER56(4)へ続く↓↓↓

英語リーディング ER50,ER56(4)

(1) 5回以上欠席した場合は成績評価の対象としません。また、この「欠席」には、上記「履修の心得」に記載の通り、「遅刻3回」で「欠席1回」とカウントされた場合の「欠席」も含まれます。欠席のみならず遅刻もしないよう、十分注意してください。
(2) 授業を円滑に進めるために予習は必須とします。怠った場合には平常点を大幅に減点します。

[教科書]

上記の【授業計画と内容】の項目で紹介した文献のコピーを配布します。

[参考書等]

（参考書）
京都大学英語学術語彙研究グループ＆研究社 『京大学術語彙データベース　基本英単語1110』（研究社）ISBN:978-4-327-45221-6

[授業外学修（予習・復習）等]

【「1周目」の予習】
辞書や文法書を用いて、「トピック・センテンス」の分析と解釈（日本語訳を含む）に取り組んでください。合わせて、「トピック・センテンス」のみの読解で足りるパラグラフと、初回からパラグラフ全体の内容の理解を要するパラグラフを見分け、後者については、パラグラフ全体の概略を理解する作業に取り組んでください。

【「2周目」の予習】
まず辞書等を使わず、「1周目」の授業内容（とくに「トピック・センテンス」の内容）を想起しながら、内容を理解するように試みてください。次いで、不明な点について辞書や文法書で調べて精読をするという作業に取り組んでください。

【「3周目」の予習】
「2周目」の授業の最終回で配布する「論旨」に関わる質問をまとめた紙（「論旨ペーパー」と呼びます）に回答を記入し、授業に持参してきてください（※「論旨ペーパー」は授業後に提出を求めます。また論旨ペーパーの提出およびその出来は「平常点」の一部に組み込みます）。

【復習時の学習】
パラグラフ単位で英文の内容を理解するように、授業で扱った箇所を再度読んでください。さらに、教材の「論旨」について考える時間を取るようにしてください。

[その他（オフィスアワー等）]

【オフィス・アワー】
毎週金曜日の15時から16時まで受けつけます。詳細はKULASISに掲示します。申し出があれば、曜日・時間の変更も可能です。

[主要授業科目（学部・学科名）]